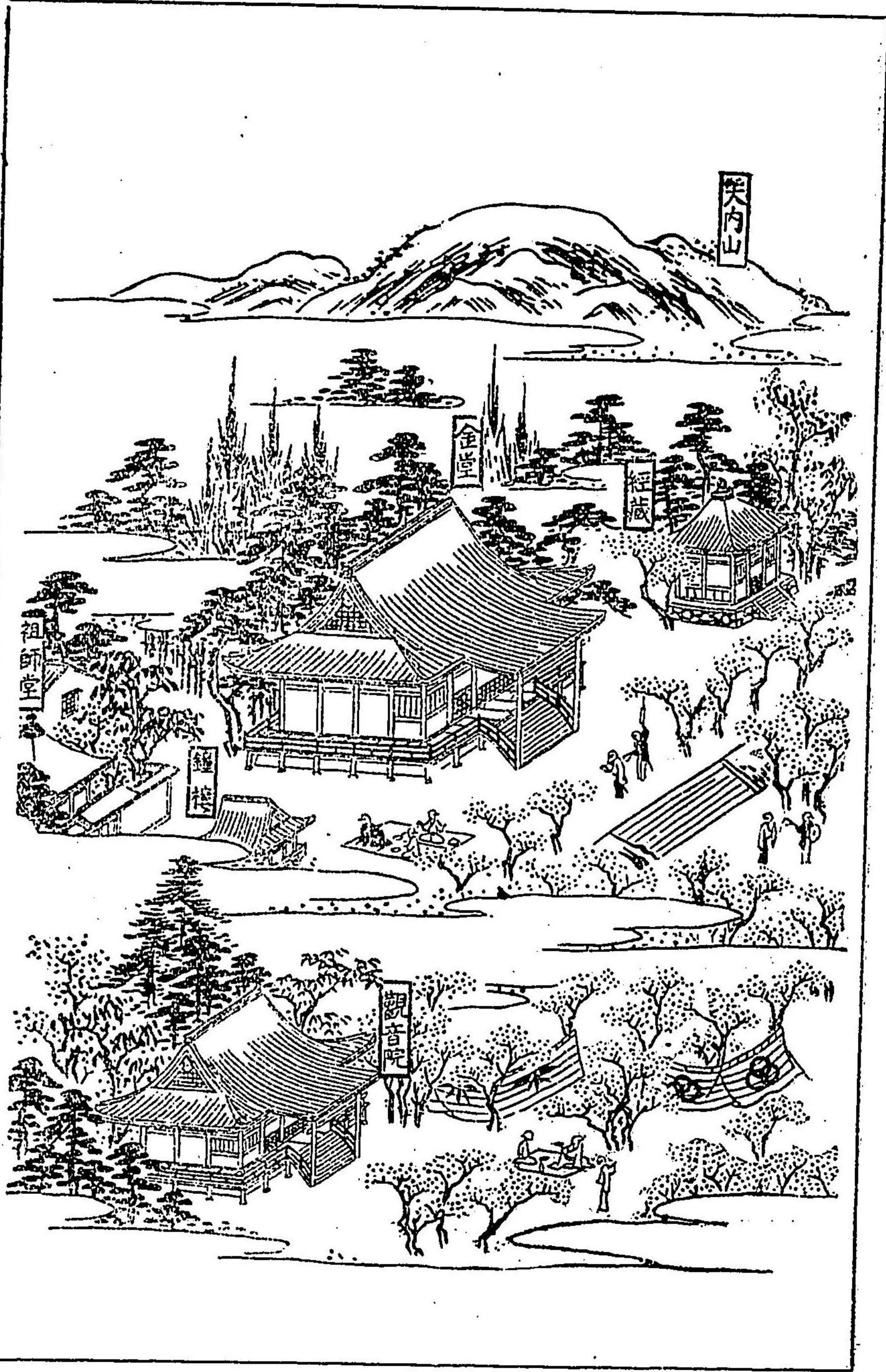


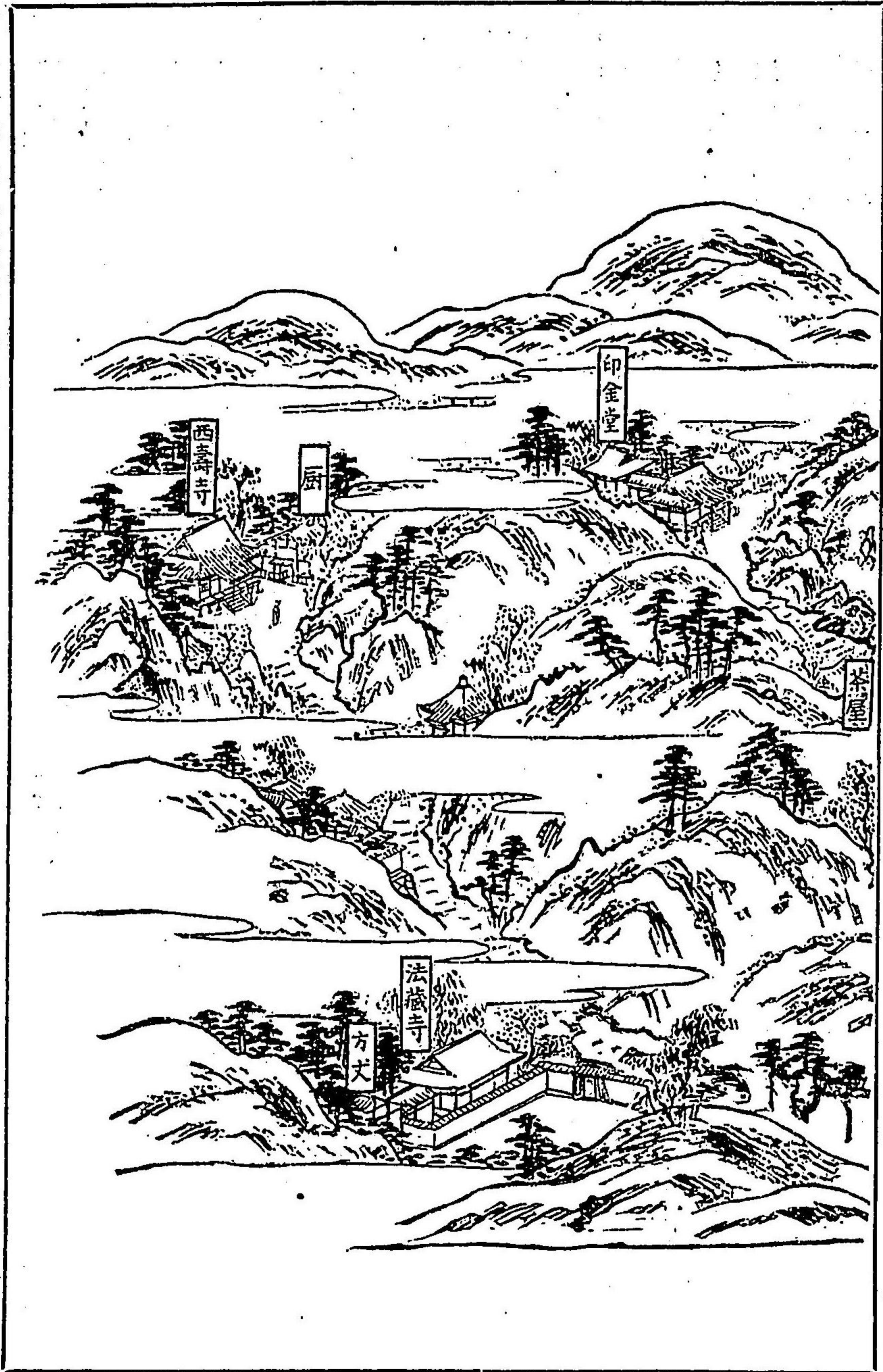
淨室仁和寺



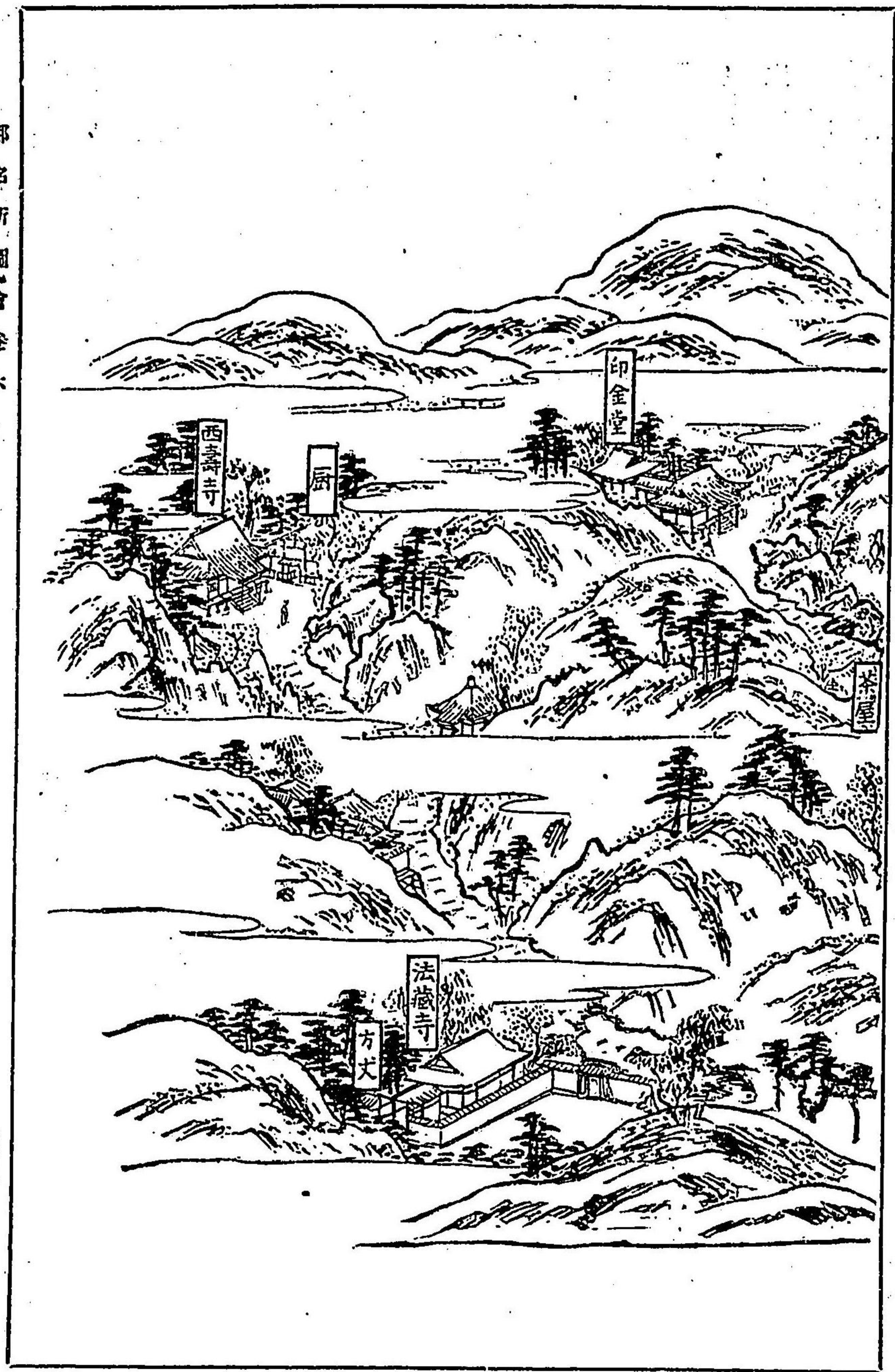
笑内山



昭濟妙光寺
泉岩西馬寺
法藏寺



明浄妙光寺
泉谷西基寺
法蔵寺



院には千手觀世音た、せ給ふ祖師堂は弘法大師自作の像脇壇には寛平法皇の宸影を安ず五重塔九所明神十二權現經藏閣伽井下乗の立石は藤木甲斐が筆とかや

夫當山は佳境にしてむかしより櫻多し山嶽近ければつねにあらしはげしく枝葉もまれて樹高からず屈曲ためたるが如し彌生の御影供は猶更花の盛には都鄙の貴賤春の錦を争ひ幕引きはへ鹿松が酒にふし李白が恨は長繩を以て西飛の白日を繋ぐ事を得んとは春色の風客花にめでて日をおしむと同じ論なり

鳴瀧 是仁和寺の西にあり此所は砥石の名産なり
山家 しばしこそ人めつゝみにせられけれ 西行

妙光寺 是鳴瀧の里の北にあり初めは内大臣藤原繼の長男右少將忠年幼名つるや妙光追福のため北山の別業を寺となし妙光禪寺と號す開基は法燈國師なり本尊は釋迦佛を安ず寶陀閣の額は木庵和尚の筆なり紫金臺の舊地はうしろの山上に遺る印金堂は堂内の四方惣印金を押して當所の壯觀こゝにとゞまる

妙光寺

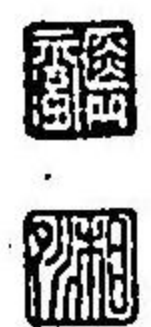


古今遷建日帝都天子之居天子以四海爲家豈有常處哉惟其所在即以爲都都者人之所都會云爾以衆大而言謂之京都周公相成王都洛邑諸侯藩屏四方朝明堂後漢李唐亦都洛陽倣

本朝聖主之例以京師稱洛陽歟抑平安者天下之中而有德無窮之都也從長岡之遷都已來歷千載而賢聖在位景星見於天由是庶民浴泰平之化予時遍覽四方山川之勝裁配畫工信繁令摸之還尋昔人之經蹟詳記其由緣全之名曰都名所圖會嗚呼聆左思之博才蜀都賦歷年所況予撰

不涉年寡聞淺識何雪其耻後君子正遺漏俟澡洗而已季秋十三夜於斑竹亭書時安永九年也

選者 平安 秋里 湘夕



畫工 浪花 春朝齋竹原信繁



安永九年

子中秋

彫工 京師

永島六左衛門
山本長左衛門
伊澤又治郎

同書林 浪花 藤江春平
岸本彦香齋
吉野屋為八梓

著作權所有

明治四十四年三月廿二日印刷
明治四十四年三月廿六日發行

部名所圖會卷二

發行者 東京市京橋區南傳馬町一丁目
葵文會

代表者 林 縫之助

正價 金七拾錢
郵稅 金拾貳錢
振替 東京金貯二四四番

印刷者 東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地
合資 吉川弘文館

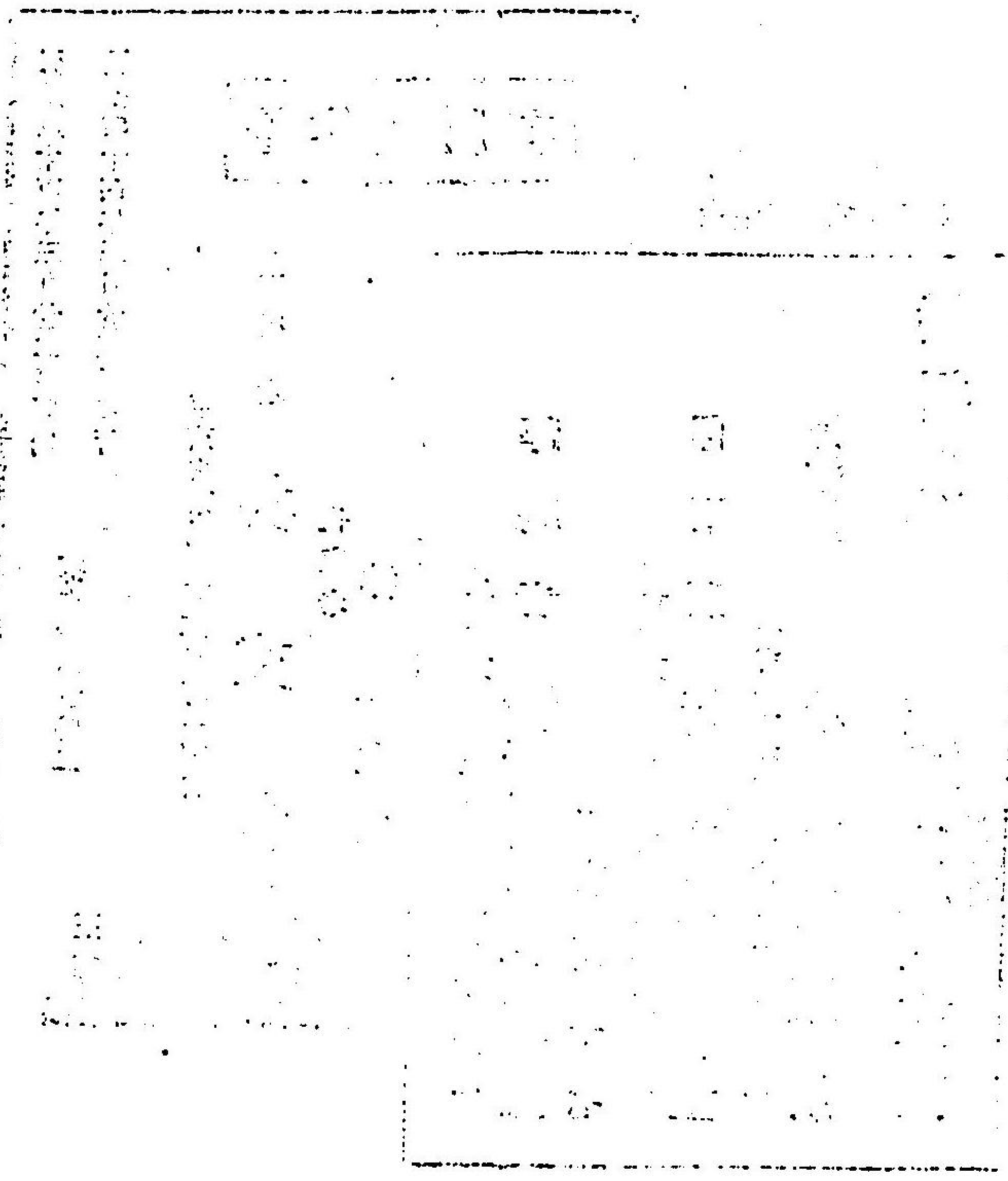
印刷所 東京市京橋區木挽町二丁目十三番地
新井電新堂

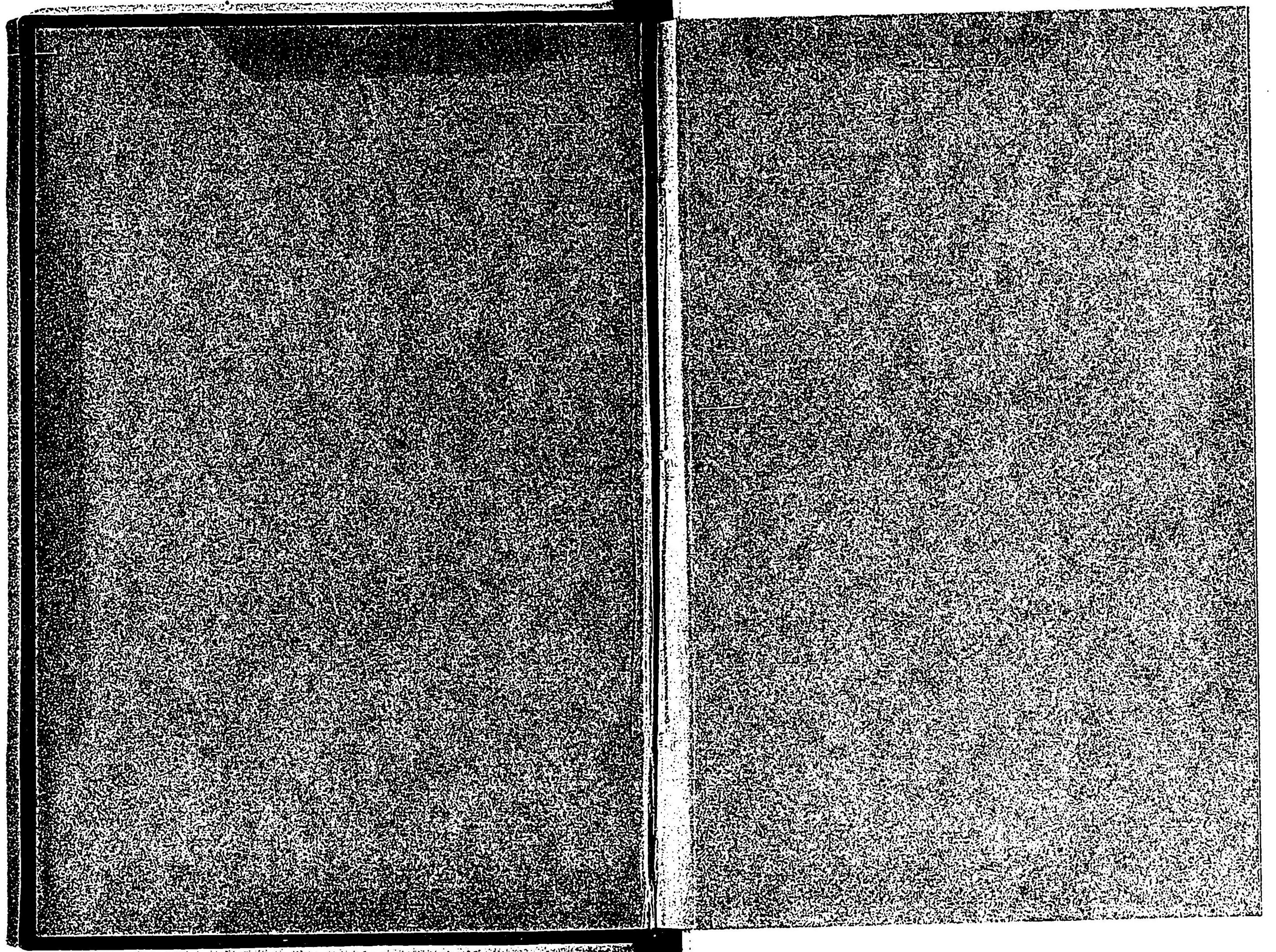
插繪製版所 東京市芝區田町六丁目壹番地
小塚製版所

發行所 合資 吉川弘文館

電話東京六九七番

21361





1951

330
12

M

